

風のよう

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

ヨハネ11：25～27

【説教要旨】

「竹田君、僕は死なないよ、だってイエスさんは言っているだろう。イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。』」と。ブラジル聖公会大キャノン弓場司祭の口癖を思い出します。司祭が「死なない」と断言できたのでしょうか。

『このことを信じるか。』マルタは言った。『はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。』」

このマルタの信仰と司祭が「死なない」と断言した言葉は、一つにするものです。確かに肉体的な死はやがてやって来ます。だれもそれから逃れることなどできません。

しかし、イエスを信じるものにとって、すでに甦りであり命であるイエスにある新しい命が宿っています。

パウロは次のように言っています。

兄弟たち、わたしはこう言いたいのです。……この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、次のように書かれている言葉が実現するのです。

「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるの

か。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」死のとげは罪であり、罪の力は律法です。わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう。

I コリント15:50~15:57

ニコデモとの対話があります。イエスさまは言われます。

「3:5 イエスはお答えになった。『はっきりしておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。』」

「水と霊」とは、洗礼です。「神の国に入る」とは、神と真実と出会うということです。キリストが私たちの生と共に生きられるということであり、神の命をいただくということです。この命は、死んでから命でなく神と生きるといういのちであり、決して死ぬことはないとは、神と共に生きるということです。

ルターは、重篤のお母さんに慰めの手紙を書いています。

次に、母上様、あなたは救いの真実の土台と根拠を知っています。あなたはあなたの病とすべての困難の中でその土台の上に立って自信をもたなければなりません。かなめ石（第一ペテロ2：6）であるイエス・キリストは揺らぐことなく、私達を見捨てることなく、私達が墮落し朽ち果てることをお許しになります。なぜならイエス・キリストは救い主であり、すべての貧しい罪人達の救い主、または苦難と死に直面している者達皆の救い主、神を信頼し神の御名を求めるすべての人の救い主と呼ばれているからです。

イエス・キリストは、「勇気を出しなさい。私は既に世に勝っている（ヨハネ16：33）。」とおっしゃっています。

「なぜならイエス・キリストは救い主である」ということが、私たちの土台であり根拠です。すべての貧しい罪人達の救い主、または苦難と死に直面している者達皆の救い主、神を信頼し神の御名を求めるすべての人の救い主であるという事実です。『『このことを信じるか。』 マルタは言った。『はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。』』ということなのです。

私の命を動かすのは、イエスの救いの力です。これが、新しい命であり、生きた力となってくるのです。イエスさまの「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」というみ言葉が、真実となり、私たちをこの世の限られた命を生きつつ、イエス・キリストの命の日々を生きていく根底から支えの恵みとなるのです。

肉体的生、死を超えて、私たちがよく生き、よく死ぬことが出来るという事実が私たちのうちに起き、新しい生きる命が私たちのうちにあるのです。肉体的生と死ということに汲々とするのではなく、私たちは新しい命に躍動に入っているのです。

そういっても私たちは死の前に自分の無力さを見ざるをえません。しかし、ラザロの復活の物語から見ていきましょう。33節、34節に「心に憤りを覚え」とあります。イエスさまは何を「心に憤りを覚え」を覚えたのでしょうか。人間をかくまで悲しませる、苦しませる死について、死の力について憤りを覚えたのです。そして後にやってくるイエスさまの十字架の死において、死と戦われ、復活において死に勝利なされたのです。主は死も私たちと共に、荷なってくださいている。死を前にして絶望しているものとともに歩いてくださる。そして「イエスは涙を流された」とあるように共に涙を共にしてくださいます。イエスさまが私たちと共にいてくださるのです。イエスさま、洗礼を通して、私たちに命を注いでくださるのです。私たちはこのイエスさまの命に支えられて死を越えた永遠の命を生き、またこの世の限られた命を喜んで力強くあゆむことができるようにこの地上に新しい命を得て生かされているのです。

世の命を生きつつ、世に打ち勝ち、永遠の命を生きる、世を越えたイエス・キリストの命を生きるのです。そこに命はあっても死はないのです。主にあって、愛に満ちた、勇気ある命を生きる者とされています。「生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」というみ言葉に支えられて生きる者の真実の日々です。

牧師室の小窓からのぞいてみると



りんごの木の柴田愛子先生から、私が出したメールに返信をいただきました。

「この時代の流れの速さに戸惑います。」と結び、「私も AI について、考え始めました。「AI と社会 江間有紗さん」の本を読み始めました。」とありました。

今、幼児教育、保育という現場で、どうこの時代と向かい合っていくことが、求められていると思います。小副川牧師の「人間と社会：AI 時代の「人間らしさ」って何？」もその一つの応答のように思います。しかし、本音は、ついていきたくないという気持ちも私にあります。



園長・瞑想？迷走記

今日は、卒園式。二年前、フィリピンから日本に来たばかり S 君と付き合いが始まりました。

私はブラジルで移民二世たちが文化、生活、言葉の違いで、大変だったという体験を聞いていましたから、小さな S 君は、私が想像するよりも大変だろうと思い、出来るだけありのままの S 君の行動を受入れ、寄り添いました。S 君が今、卒園します。グーグル翻訳の助けをかりて、たどたどし私の英語で、最後の語りかけをして、卒園証書を渡しました。最後はこちらが詰まって、涙で、最後まで語りかけられませんでした。

S kun, did you have fun at kindergarten? Coming from the Philippines to Japan S kun must have been difficult and S kun had to get used to it. But S kun worked hard、S kun have played together with enchou sensei in this time. Enchousensei had good time with S kun S kun、You're cute, and more than that, S kun you're a gentleman. And S kun you're a child of God, a man of love. S kun You helped your many little friends. Thank you.

The enchou sensei will treasure the memories you gave him. I hope you will treasure your kindergarten memories as well. God will protect you even when you enter elementary school. Have fun at elementary school. Please come to kindergarten anytime.

S 君の出会いの宝をこれからも大切に歩いていきたいと思います。

毎日の糧

聖書：わたしは主に望みをおき／わたしの魂は望みをおき
／御言葉を待ち望みます。 詩編130:5



ルターの言葉から

まことに神の恵みを待ち望む人は、神が助けてくださる手段と場所と方法を、みこころにゆだねています。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

慈しみに生きる人

七つの悔い改めの詩編の6番目の詩編である。

罪に対する厳しい審判よりというよりもむしろ赦しが強調され、それゆえ未来の希望が述べられている。

歴史的背景は、ネヘミヤ時代、バビロン捕囚帰還と神殿再建の中での苦しみと信仰、希望の中から生まれたのかもしれない。

「この詩の中心にある赦しに応ずる信仰が信仰であり、いつくしみが愛であるとすれば、この詩においても一つ重要な意味を持つ『待ち望む』『待つ』等は希望をあらわす。……この詩は旧約において一番新約の福音に近い証言の一つである。」⑤とあるように聖書の生き方に、「待つ」という言葉は、重要な意味をもっている。

誰を、何を待つのだろうか。それは主を待ち、主の力を与えられるのを待つのである。

「『待つ』とある言語は元来縛る意であるが、詩編、イザヤ書等に多く用いられている。第二イザヤと称される預言者は言う。

主に望みをおく人は新たな力を得／鷲のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。イザヤ書40:31」②

この姿が信仰者に与えられていくのである。

引用文献：①詩編注解上下

関根正雄 教文館

②詩篇

浅野順一 岩波新書

祈り：主を待ち、主によって力を得る人生の旅となりますように。アーメン。

甘木通信

ひとりよりもふたりが良い。

共に労苦すれば、その報いは良い。

コヘレト4：9



私の葬儀説教をアライアンス教会の泉牧師に頼んでいる。不思議なことだが、彼とは何年も会っていないが、いつも共にイエスさまの福音を伝えるために今も共に歩んでいるように感じている。「共に労苦」している。

教派の違う牧師であった泉牧師とブラジルで、出会って、何年になるだろうか。よく一緒に伝道旅行、アシュラム（黙想会）、伝道をした。伝道旅行、アシュラムも泉牧師がいつも呼びかけて、私がついていくというパターンであった。運動会を出来るほどの彼の教会は大きな教会であった。「おいでよ」と誘ってくれて、私の教会も参加していた。その度、「ひとりよりもふたりが良い。」ということであった。彼といると楽しく、旅を終わってももっと続けたいという気持ちが残った。

二人の共通の課題は、二世の牧師にバトンタッチしていくということであった。顔は日本人であっても、文化の違い、言葉の隔たりから、もの考え、振る舞いが、まだ1世の強い教会に軋轢を生み出すことは見えていた。どう、日本の文化、日本人的信仰を伝えていくか苦勞し、二人をY司祭に教育していただくことにした。こんな労苦を共にしたことを今で思い出す。

その彼が79歳をむかえて引退するという。そして一緒に五島列島に行こうと誘ってきた。労苦した報いが五島列島の旅となるのだろうか。よくここまで共に伝道の旅を続けられた。

(甘木日記)土) 甘木へ。午後から「キリスト教講座」、四旬節の黙想についてカトリック教会の神父からYouTubeで学ぶ。夜、遠方会員に手紙を書く。少し冷えてきた。日) 庭を掃き、礼拝に与り、役員会をし、夕刻、帰宅。月) 幼稚園が始まる。午後から26年度職員人事配置を決める。火) 水) 定期診療で大学病院に。日善幼稚園、羽村幼稚園の仕事。日善は職員会議。木) 日善幼稚園は保護者と2025年度終了式礼拝。羽村幼稚園は卒園式。夕刻、九州教区総会のために、博多・箱崎教会へ。老いた教会は。実感。さてどうなっていくのだろうか。金) 松崎保育園の卒園式。休日なので、家内と久しぶりに博多に行き、午後を過ごす。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人(牧師)もいますが。



土) 午前、木教会へ向かう。週報などを印刷。昔は、ガリ版。パソコン、コピー機で。想像も出来なかった。午後から「キリスト教講座」、聖書でたどる生き方を学ぶ。四旬節黙想についてYouTube(四旬節黙想会 山内保憲神父)を用いて学ぶ。ユーモアの話に導かれつつ、懺悔の意味を教えていただいた。カトリック教会は告解で忙しくなる。**日)** 日が昇ると同時に掃除。上手く庭を掃くことが出来ない。心が疲れているようだ。礼拝後、役員と話し合い、信徒さんに車で久留米に送っていただく。車の中で最後まで寝ていた。老いとどう向かい合っていくかという一コマである。これも良し。**月)** 幼稚園が始まった。正直、体調も悪く、休みたいが休んでいられない。26年度の職員配置を午後から設置者、主任、事務と決める。人の配置は神経を使う。終わったころには体から力が抜けている。これが、今の自分であることを認めつつ、次へ。帰宅し、YouTubeでカトリック教会の黙想の会の話の聞きながら眠りに着く。**火)** 忙しい中で甘木教会紹介をK兄に作っていただく。息子さんが家まで届けてくださる。帰りの車に私の整理する本5箱を、聖和幼稚園に届けていただく。**水)** 定期診察に大学病院へ行く。血液検査、造影CT検査、MRI検査がなく、内臓のエコー検査だけでよかったが、診断。8時半に行き、13時。そこで柴田愛子先生の本を読む。ふむふむ。そうだ、そうだ頷く。検査結果は良くない。なぜこういう結果になるのか様子見となり、来週も検査。いつ倒れて良いように先に、先に仕事をすることにする。羽村幼稚園の「人事院勧告の人権費改定分(清算額)」の打ち合わせ。日善幼稚園の職員会、「2026年度期案」「4月の園だより」の原稿を作っていく。そんなばたばたするから四旬節の黙想「中川博道神父『21世紀・霊性の時代の十字架の聖ヨハネ』」を聞き直す。**木)** 日善幼稚園の保護者と共に2025年度・修了式礼拝。引っ越しするk君とお母さんに十字架をプレゼント。離れていても十字架と歩んでいこう。中学生時代から知っていて、久留米で再会したs先生が引退。時を感じる。花束を、そして私が好きな盆栽をプレゼント。する。**夜、**九州教区総会のために博多・箱崎教会へ。50年前のあの緊張した張り詰めた雰囲気はなく、何か拍子抜け。**金)** 松崎保育園・卒園式。心温かい時間。式が終わり、ちょっと足を延ばして家内と博多へ。体調の良い時がどれだけ続くか分からないので良い時に、一緒にいる変哲のない時を大切にしたい、一緒に食事、デパートをまわる。これだけで良い。

